

平成 27 年 7 月定例教育委員会会議録

1. 日 時 平成 27 年 7 月 30 日（木）午後 2 時 30 分～午後 6 時 20 分

2. 場 所 市役所新館 4 階 第 1 委員会室・会議室

3. 出席者

委員長 中野 俊勝 委員長職務代理者 川岸 靖代 委員 谷口 馨
委員 野口 和江 教育長 樋口 利彦

4. 事務局出席者

教育総務部長 西川 照彦 学校教育部長 須賀 俊介 生涯学習部長 松阪 正登
学校管理課長 古谷 利雄 総務課長 大西 謙次 産業高校学務課長 山本 徹雄
産業高校教頭（全日制） 汐崎 可寿美 学校教育課長 松村 慎治
人権教育課長 阪本 美奈子 生涯学習課長 大和 昇
理事兼スポーツ振興課長 直 清司 郷土文化室長 小堀 頼子
図書館長 玉井 良治 総務課参事 高井 哲也 総務課参事 中野 忠一

開会 午後 2 時 30 分

前回会議録について承認された。本会議録署名者に川岸委員長職務代理者を指名した。

傍聴人 13 名

○中野委員長

ただいまから、7 月定例教育委員会会議を開催します。

報告第 46 号 各幼稚園への寄附について

○中野委員長

報告第 46 号 各幼稚園への寄附について、事務局から説明をお願いします。

○古谷学校管理課長

報告第 46 号につきましては、各幼稚園への寄附についてでございます。

寄附品名は、絵本「くじらのおやこ」で換算額は 34,500 円です。幼児教育振興の寄附目的により、国際ソロプチミスト大阪いずみ様より平成 27 年 6 月 29 日にご寄附いただきました。この絵本は、国際ソロプチミスト大阪のメンバーの方が作られたものと聞いております。

○中野委員長

非常にかわいい絵本をいただいて有り難く思います。これを機会に園児たちが一層絵本に親しみを持ってくればと思います。

報告第 47 号 第 28 回濱田青陵賞受賞者の決定について

○中野委員長

報告第 46 号 第 28 回濱田青陵賞受賞者の決定について、事務局から説明をお願いします。

○小堀郷土文化室長

報告第 46 号につきましては、28 回濱田青陵賞受賞者の決定についてでございます。

受賞者は、千田 嘉博様に決定いたしました。1963 年生まれで、現在は奈良大学の学長をされております。業績につきましては、わが国における城郭の考古学的研究を新たに開拓し、その確立と発展に寄与した、ものでございます。特に主な論著にあります、「織豊系城郭」の形成のところで城郭の研究に関して大きな影響を与えた、ということがございます。発表は、既に 7 月 24 日（金）の午後にプレス発表があり、翌日 25 日の朝日新聞に掲載されました。広報きしわだへは、8 月号に掲載を予定しており、市民へ周知の予定でございます。また、例年、授賞式シンポジウムを行っております、9 月 22 日（火）を予定しており、詳細は確定次第、後日、報告させていただきたいと思っております。

○中野委員長

一時お城ブームがあり、今でもお城めぐりツアーで特に天空の城の竹田城や越前大野城が人気スポットみたいです。金箔瓦が出土して、信長のものと秀吉のものとで金箔の貼り方が違うという研究もあるようです。その織豊時代の彦根城、熊本城で築城 400 年祭が行われて、その時のイメージキャラクターが“ひこにゃん”や“くまもん”で全国的に人気があります。岸和田市は世界に一番近い城下町と情報発信して、キャラクターの“ちきりくん”が活躍してくれています。9 月 22 日にシンポジウムがありますが、全国からお城ファンに押し寄せてもらって、同時に岸和田城にもたくさん見学に来てもらえたらと期待しています。

○中野委員長

報告事項については以上ですが、何かありますか。

特にご意見等ないようですので、議案の審議に移ります。

議案第 40 号 平成 28 年度市立幼稚園児の募集について

○中野委員長

議案第 40 号 平成 28 年度市立幼稚園児の募集について、事務局より説明をお願いします。

○大西総務課長

議案第 40 号につきましては、平成 28 年度市立幼稚園児の募集についてでございます。

平成 27 年度に策定されました、岸和田市子ども・子育て支援事業計画に基づきまして、平成 28 年度より 3 歳児の受け入れを市立幼稚園 6 園でやっていくことが決定されています。その募集要項について、ご審議いただくとともに、例年の 4・5 歳児の募集要項についてもご審議いただくものでございます。

本件は、平成 27 年度の市立幼稚園 5 歳児及び 4 歳児の募集に当たり、募集要項についてご審議いただくものです。

まず、3歳児の募集要項（案）でございます。応募資格は、平成24年4月2日から平成25年4月1日までに生まれた幼児を対象にしています。計画では、平成28年度に6園の実施で、岸城、旭、城北、八木、常盤、山直北の6園で実施します。定員は1クラス25名で、応募できる校区を幼稚園ごとに決めております。入園の決定は、25名を超える応募者があった場合には公開抽選を行い決定します。また、25名に満たない場合、市内全域を対象として二次募集を行います。

次に、4・5歳児の募集要項（案）ですが、例年より募集数に変更がございます。1クラス25名の3歳児を受け入れるため、3歳児を除いた数の4・5歳児の募集をかけることとなります。入園の決定等は例年と変わりありません。周知につきましてもホームページやポスター掲示等で例年通り行っていきたいと考えております。

○野口委員

例年、適正就園は4・5歳児の入園決定に伴って行いますが、新たに3歳児を受け入れるにあたって、適正就園指導委員会の関わりはどのようになっていますか。来年度予想としてはいかがでしょうか。

○阪本人権教育課長

3歳児で適正就園が必要である場合、4・5歳児の適正就園と同じ時期に合わせてさせていただこうと考えています。

○野口委員

入園願書を出されて抽選にならなければ、すべて受け入れになりますか。

○阪本人権教育課長

3歳児で抽選があった場合、入園が決まった後に対応させていただきます。

○中野委員長

3歳児を受け入れる該当の幼稚園に4・5歳児のきょうだいの入園児童がいる場合、保護者にとって送迎が一度で済む便利さがありますが、きょうだいがいることで優先して入園できることは考えていないのでしょうか。

もう一点、今回の申し込み状況が参考になると思いますが、平成29年度以降の募集計画について教えていただきたい。

○大西総務課長

一点目のきょうだい優先につきましては、一切いたしません。公平に抽選させていただきます。

平成29年度以降について、計画では年次的に拡大し、最終、平成31年度には19園まで拡大しなければ3歳児の待機解消にならない計画になっております。4年をかけて増やすことになっておりますが、毎年、応募の状況や人口の推移を見ながら子ども・子育て会議の中で審議されていくこととなります。

○川岸委員長職務代理者

3歳児のアフターはどうしますか。

○大西総務課長

同じように18時まで実施します。

○中野委員長

他にご意見等ございませんか。特段ないようですので、原案の通り承認します。

議案第 41 号 岸和田市スポーツ推進審議会委員の委嘱について

○中野委員長

議案第 41 号 岸和田市スポーツ推進審議会委員の委嘱について、事務局から説明をお願いします。

○直スポーツ振興課長

議案第 41 号につきましては、岸和田市スポーツ推進審議会委員の委嘱についてでございます。

岸和田市附属機関条例及び岸和田市スポーツ推進審議会規則に基づき、当該審議会の委員を委嘱するものでございます。委員には市民公募もございます。既に募集を行い、審査をさせていただきました。定員につきましては、条例では 15 名となっておりますが、14 名となっております。構成は、スポーツに関する学識経験者、市民公募、関係行政機関の職員、その他教育委員会が認める者で構成させていただいております。第 1 回の審議会につきましては、8 月 7 日（金）15 時から開催を予定しております。場所は、新館 4 階第 2 委員会室です。案件につきましては、委嘱状の交付、委員長、副委員長の選出、平成 27 年度スポーツ振興事業についてでございます。

○中野委員長

2020 年の東京オリンピック、パラリンピックに向けて、目標にしたり、きっかけにしたりして本市の幼児から高齢者のスポーツの振興、発展に尽力いただきたいと思います。

○中野委員長

他にご意見等ございませんか。特段ないようですので、原案の通り承認します。

次の議案審議に入る前に準備等があるようですので、10 分程度休憩といたします。採択の関係者以外は退席願います。それでは、準備をお願いします。

教科用図書の採択審議に向け、教科書等の準備

議案第 42 号 岸和田市立中学校における平成 28 年度使用教科用図書の採択について

○中野委員長

それでは議案第 42 号 岸和田市立中学校における平成 28 年度使用教科用図書の採択について、事務局から説明をお願いします。

○松村学校教育課長

議案第 42 号につきましては、岸和田市立中学校における平成 28 年度使用教科用図書の採択についてでございます。

岸和田市立中学校の教科用図書の使用について、教育委員会で採択するため、教科用図書選定委員会の答申を上程するものです。このたび、学習指導要領の主旨を踏まえ、本市生徒の学習に

もっとも適した教科書の採択に向け、慎重かつ丁寧に専門的な観点から調査・研究を行い、審議した結果として教科用図書選定委員会より答申をいただきました。審議におきましては、全ての教科書発行者において検討し、各社の特徴をもとにメリハリのある教育を通して、岸和田市の子供の学習に適しているものについてのご意見も出ております。結果的に全者とも推薦をいただいているものでございます。このあと、種目ごとに1者の採択をいただくこととなります。よろしくお願いいたします。

○中野委員長

何かご意見等ございませんか。特段ないようですので、議案の審議に入ります。

審議に入る前に、議案の審議の進め方になります教科用図書の採択の手順についてお諮りいたします。

2つの場合に分けて説明します。

発行者が3者以内の2者または3者の場合と、4者以上の場合とに分けて審議、検討をしたいと思います。

まずは、発行者が3者以内の場合、それぞれの教科書のうち、特色が多いか或いは大きい、または岸和田の中学生が使用するにあたって、気になる点がないか、より少ないかを審議して該当する発行者を決定して採択します。

次に発行者4者以上の場合、それぞれの教科書のうち、特色がより少ないか、或いは岸和田の中学生が使用するにあたって、気になる点があるか、より多いかを検討して該当する発行者を採択から外します。残りの発行者について、それぞれの教科書のうち、特色が多いか或いは大きい、または岸和田の中学生が使用するにあたって、気になる点がないか、より少ないかを集中審議して該当する発行者を決定して採択します。

以上の内容で進行しますが、ご異議ございませんか。異議なしということですので、この手順に従って進行してまいります。なお、会議中、発行者の名称については、便宜上、略称を使用させていただきます。

【国語】

○中野委員長

国語5者あります。そのうち学校図書（以下「学図」）について、どの教科書でも、1年間の学習内容を表す目次は大切な要素であります。学図では、絆、生命、群像、伝統、世界の5つの領域に区分して3年間通している特色があります。内容的には、挿絵に用いられているキャラクターが3年間統一されているので、観点ごとのつながりを持ちやすいと思います。一方、教科書の冒頭に付きたい力等のこれから学習していく全体の見通しについての記述が少ない気がします。全体として資料の挿絵や写真が少ない感じがします。挿絵や写真は、考える大きなヒントや助けになりますので、重要な要素かと思えます。特に挿絵に関して、漱石のぼっちゃんさんが5者で題材としてあげられていますので、題材の中の挿絵について比較がしやすいと思います。学図のぼっちゃんについては、2年の93ページにあがっていますが、1箇所だけで少ない感じがしま

す。学図については外します。

次に教育出版（以下「教出」）ですが、各単元の最後に各教科に関連した書物の紹介があって、これは発展学習につながると思います。1年生では文字を大きくし、読みやすくする工夫が見られます。フリップや図表を用いるなど多様な発信手段が示されています。しかし、2年生 66 ページで、絵コンテでごんぎつねが使われています。文学作品を読んで終わりにするのではなくて、他のメディア表現に変換することで、どんな解釈をしたかを考え直すうえでの効果的な活動になりますが、ごんぎつねは小学校4年生の教材です。中学校2年生が扱うにしては、生徒に戸惑いが出るように思います。挿絵について、ぼっちゃんでは2年生の134ページにあります。挿絵がありません。この他全体を通して、写真等が掲載されているページが少ないので、外します。

この2者を外すことにご異議ございませんか。

残りの東京図書（以下「東書」）、三省堂、光村図書出版（以下「光村」）について、集中審議に入りたいと思います。

○中野委員長

ぼっちゃんの挿絵が全体に共通していると言いましたが、東書では2年生の218ページに出ています。清が竹棒でガマロを探している様子が描かれています。三省堂は3年生184ページ、けんかをしている様子や蕎麦湯をもらっている様子が描かれています。光村につきましては、1年生268ページに井戸端で洗っている様子が描かれています。

感想としまして、三省堂が非常に印象の少ない挿絵になっているような気がします。東書と光村を比較しますと、東書の方の絵がかなり丁寧に描かれていると思います。光村の方は個性的な絵だと思います。その絵の内容で東書はトイレがリアルに出ています。光村の方は、そのあとの井戸端でガマロを洗っている絵が出ています。学校でもいろいろな状況を考え、国語の授業が昼食の前後であれば東書のような場面を思い出すと気分が悪くなる子供が出てくるかもしれない。そういう意味では、光村の方が気配りがあるかと思います。

○樋口教育長

言語活動の充実を見せていただきますと、三省堂や光村は多分に取り扱われているのが特徴ではないかと思います。東書ではやや少ないのではないかと感じました。選定委員会でそのあたりの傾向の声はありましたか。

○池住指導主事

話すこと聞くことの箇所数調査の中では、光村が16箇所、三省堂は14箇所、東書は9箇所となっております。

○中野委員長

国語では、評価は全体を通して非常に大きな要素としては、主観を育てる部分があると思います。そういう観点で、特に重視される取組みとして力点を置かれる教育活動、全般を通してなので難しいと思いますが、絞り込んでどういう取組みで主観を育てやすくなりますか。

○池住指導主事

一番分かりやすいのは比較して考えることが大事という話も出ていました。

○中野委員長

東日本大震災を扱った新聞記事で、東書の方は記者が取材に苦労しながら新聞を作り上げていく内容の教材が3年生184ページに出ていました。光村の方はノンフィクションとして2年生の286ページで羽生選手が東京オリンピックで金メダルを獲得した2つの新聞社の記事があって、同じ出来事に対して2通りの記事があり比較するというのが出ていました。それぞれを読んで自分の考えをまとめ上げていく点で、題材として適しているのかと思います。

○樋口教育長

もう一つの観点で、書くことが少なくなってきたと思います。しっかりと書いて学ぶ点では、東書や光村が多いように思いますがいかがですか。

○池住指導主事

ページ数調査で書くことにつきましては、東書81ページ、光村81ページ、三省堂は65ページでした。

○中野委員長

三省堂の題材で文学的な文章の掲載ページが他に比べて若干少ない気がしました。

○池住指導主事

文学的文章につきましては、取り上げているページ数は、三省堂154ページ、東書171ページ、光村216ページとなっております。

○野口委員

どの教科書も資料編がたいへん充実していると思いました。授業の中で資料編がどのように活用されているのかお聞かせください。資料を活用するにあたって特徴的なものがどの教科書であったかお話しは出なかったでしょうか

○池住指導主事

3者とも特に発展、発達に応じた学習について掲載されているということでしたが、調査員の中ではクイズ形式であるとかは光村の中では出ていました。

○中野委員長

文学的な文章が少ない点で三省堂はマイナス材料かと感じました。主観を育てるという国語の教科の中でも大きな要素で、光村でははっきりとした根拠をあげてもらっていて、先ほどの挿絵のことも含めて光村が良いかな、という気になっています。

○野口委員

どの子供も楽しく国語学習ができることが一番大事なことだと思います。資料や教材などで丁寧に導いてもらえたら、どの子供も学習に意欲的に進めていけるのかと思います。その点で光村の“文学的な文章を読むために”、“説明文の文章を読むために”が各学年入っていて、大変長い教材がありますが、読みこなすためにどうすれば良いのかをきちんと説明されている。難しい言葉にはきちんと意味を書いてくれている、生徒をうまく導いてくれたりする教科書ではないかと感じています。それぞれの単元の狙いがあるのか一番最初のところにあって、子供にとっては分かりやすく、良いのではないかと感じています。

○川岸委員長職務代理者

岸和田に限定すると、光村の最後の色の言葉など興味を持たせる言葉も出てきたり、学年で色が変わっていたりするので、漢字を覚えるにも良いかと思います。色を覚えて、漢字を覚えて、国語に興味を持ってくれるかな、というところがポイントです。

○谷口委員

楽しく、興味を持てる挿絵の差で光村が良いのかと思いました。新聞記事のこともありますが、ディスカッションをする題材として、意見の違う2つの記事を載せることで話し合いができるものが用意されている点で光村が素晴らしいと思いました。

○中野委員長

光村に決定したいと思いますが、ご異議ございませんか。異議がないようですので、【国語】は光村に決定いたします。

【書写】

○中野委員長

続いて【書写】に移ります。書写は5者です。

三省堂につきまして、話し合おうというページが多いので、言語活動を導くためには良いかと思えます。毛筆の書き方の後に硬筆の書き込み練習があつて効果的だと思います。しかし、教科書に出てくるキャラクターですが、探検隊風で登場します。書では落ち着いた雰囲気が必要であるが、探検隊という活動的なキャラクターが合わないような気がします。その中に探検隊がループを持っているものもありますが、そこまで分析的に捉えなくても良いのではないかと、違和感があります。最初の教材ですが、楷書で書こうという章があります。副題ですが、続けて“～を確かめよう”、という文言が続きます。基礎を固めるのに必要かもしれませんが、“確かめよう”ということで卒にはめてしまうような気がして、それではのびのびと書けないのではないかと思いました。次に漢字の一覧表に楷書体と行書体が掲載されていますが、小学校で学習した漢字と中学校で学習した漢字が、小学校が前で中学校が後に分けてあつて見にくいのではないかと思います。三省堂につきましては外します。

残る東書、学図、教出、光村の4者で集中審議をお願いします。

○谷口委員

東書は大きく、見やすくなっているのが大きな要素であると思えます。

○中野委員長

東書は中学校では行書を中心に扱うということですが、最初の方に運筆をきっちり練習をしているので、行書の対応がしやすいのかと思います。

○川岸委員長職務代理者

学校だけでなく夏休みの宿題などに書写が出てくる場合があります。家でする場合、半紙原寸大の大きさの作品が載っている方が使い勝手は良いです。

○中野委員長

東書がワンサイズ大きくなっている。紙面もゆったりしているような感じもします。

○川岸委員長職務代理者

原寸大があるかで見ると、光村は作品は多いが、原寸大がありません。

○中野委員長

漢字一覧表を見ると、学図には行書体だけで楷書体がない。教出についても行書体だけで楷書体がない。東書は日常生活の様々な文字や常用漢字に加えて人名漢字についても行書体と楷書体の掲載がされています。楷書と行書の文字も豊富で使い分けも考えられている。両方の対応は東書かと思います。

学習指導要領の重要な中に実生活に結び付けていく要素があるかと思いますが、東書の場合には毎学年の終わりに実用的な教材を配置している。発達段階に応じて実生活に応じた必要なものを学ぶことができる。他の出版社は、後ろにまとめていて、時期に応じて学ぶことが難しい気がします。そういう点で東書が良いと思います。

○谷口委員

巻末の行書体と楷書体の両方書いていることで比較しやすいと思います。東書が良いと思います。

○野口委員

東書が生徒には親切な手本だと思ったのは、手本の上を書くときのポイントを書いています。子供たちは初めて行書に触れるわけですが、続けるところ、点、画のポイントなどを丁寧にされている。手本に名前がきちんと書かれていて、作品全体としての仕上がりが分かりやすいと思いました。

○中野委員長

東書に決定したいと思いますが、ご異議ございませんか。異議がないようですので、【書写】は東書に決定いたします。

【地理】

○中野委員長

続いて【地理】です。地理は4者です。

教出について、点字の見開きがあり、ところどころにキャラクターが発音、解説、指示をしているので、生徒の気持ちを惹くことができる。一方で、写真にしてもらいたところがイラストになっていて、生徒が理解しにくいところがある。例として、239 ページの北海道の地図がそのページの上に出ています。これはもっと鮮明な地図で各地域の特徴が分かるような図を掲載してもらいたかったと思います。もう一点、274 ページ日本の都道府県のあらましですが、欄ごとに色に濃淡をつけて表してもらっていますが、淡い色を見ていると濃い色の方が目に入ってしまうので、気を利かせているようであまり役に立っていません。証拠に272 ページの世界の国々のあら

ましは一色刷りになっていますが、この方が素直にスムーズに読むことができます。生徒の気持ちを配慮してもらっていますが、効果が逆に作用しているのではないかという気がしています。そういうことで、教出を外します。

残る東書、帝国書院（以下「帝国」）、日本文教出版（以下「日文」）の3者で集中審議に入ります。

○中野委員長

日文について、写真等の資料が新しいものが掲載されていますが、気になりますのが第1編第1章2ページから11ページで左側の偶数ページに本文が出ていて、奇数ページが資料になっています。第2章14ページから29ページを見ますと、資料が左側の偶数ページで、本文が右側の奇数ページになっています。それ以降は、中央に本文があって、その周りに資料が載っていて統一がありません。1章、2章でそれぞれの資料を見てから本文を見ると一行が視野に入らずに文字を追うのに苦労します。いかがなものかと思えます。

調査結果に各者で小学校の学習事項との関係に触れていたり分かることはありませんか。

○角銅指導主事

東書の各単元の初め、各章の初めのページに小学校で学習をした事柄について、語句でまとめられているという報告がありました。

○中野委員長

他の発行者にはあまりないと解釈してよろしいか。

○角銅指導主事

東書にはあるという報告でした。

○野口委員

中学校で初めての地理の中で調査学習というのが本格的に取り上げられていると思いますが、ここまで本格的な調査活動は小学校では経験していない中で、中学校になって初めて調査活動するわけですが、その調査の項目について選定委員会の中で意見は出なかったでしょうか。

○角銅指導主事

調査員からの報告では、調査の仕方について簡潔に分かりやすく書かれている教科書があり、東書、帝国の名前があがっていました。

○野口委員

特に身近な地域の調査で大阪府の都市があがっていないのが残念でした。生徒が身近な活動をしなないといけないので、分かりやすい内容でなければいけないと思います。その点で、東書の調査活動についてはきめ細かく書かれていて、子供たちが不安なく調査活動に入っていけるのではないかと、という印象を持ちました。授業だけでやれることではありませぬので、子供たちが自らがしなないといけない。長期休業を利用してやることもあるかと思いますが、子供たち自身が学びながらやっていくうえで、東書の調査についての章が丁寧に分かりやすく書かれているのではないかと印象を持ちました。

○中野委員長

東書が優れていると思ったのは、第1編の最初のページに特徴的な大きな写真があって、すぐ下に面積、人口、人口密度のデータが各州ごとにきっちりと出ています。地理を学ぶうえでは、非常に大きな要素なので、そこをきっちり抑えているのが素晴らしいと思います。中身を勉強していくにつれ、それぞれに暮らしている人の生活の様子、町の特徴などを表していますので、導入として非常に優れていると思います。

○樋口教育長

東書、帝国は資料や写真を鮮明に両者ともやっています。地方の学習を振り返ろう、というところに視点を置き、例えば九州地方の学習を振り返ろうの両者の取り扱いを見ましたところ、東書は振り返った後に深めようと一歩食い込んだ振り返り方をしていることもありますので、この点に関しましても東書の方が子供たちがより発展的に見ていけるのではないかと感じました。

○中野委員長

学ぶ時と学んでからも充実しているということであれば、東書という気がします。よろしいですか。【地理】につきましては東書に決定します。

【歴史】

○中野委員長

続いて【歴史】です。歴史は8者です。

教出について、脚注の文章資料の中に原文を取り入れる箇所を設ける一方で、重要資料は現代文の要約を用いているなど、表現に理解を促す工夫が見られます。一方、例えば127ページの見返り美人の図、それ以外の人物等の写真資料で背景が暗い。色彩に暗さがあって分かりにくいものがあります。非常に気になります。言語活動の難易度ですが、全単元を通じてほぼ同じような様子になっています。例えば、21ページの振り返りの部分ですが、ステップ1、ステップ2がありまして自分なりの言葉で説明するような指示の文章は非常に簡単ですが、答えようとすると大きな内容で答えにくい。発達段階から考えますとなかなか難しい内容になっています。通してそのようになっていますので、生徒にとって負担になるのではないかと思います。巻末に他の出版社には用語解説があるのですが、教出にはありません。このことから、教出は外します。

次に清水書院（以下「清水」）ですが、巻末にマララさんの写真があって非常に印象に残る工夫がされています。しかし、本文が簡単で量的にも少ない感じがします。脚注の資料が小さくてフォントが細く見づらい。資料の出典の記載がないものがあります。世界史の内容が薄いような気がして、例えば、イギリスにおける市民革命については触れていない。このようなことがありますので、清水は外します。

次に自由社ですが、各章の最後に歴史豆辞典があって百字用語の解説となっていて調べやすくなっています。一方で資料に通し番号がなく、本文との関連が分かりにくい。本文の中に資料の通し番号がない。資料を参照するときにどれを見ればよいのか分からない。日本史関連ではかな

り詳しいですが、比べて世界史では薄い感じがします。日本史の詳しい部分を課題学習にまわしてもらって、その分で世界史を補って厚くしてもらえば良いのではないかと思います。そういうことで、自由社を外します。

次に、育鵬社ですが、各章の扉で扱う時代の範囲を帯で表示していて、学習する時代が分かりやすくなっています。日本史関連がかなり詳しいのに対して、世界史関連が薄い感じがします。日本史の詳しい部分を課題学習にまわしてもらって、その分で世界史を補って厚くしてもらえばより良くなるのではないかと思います。そういうことで、育鵬社を外します。

次に学び舎ですが、各章のまとめの中で討論を行わせる場面を設けて、他者の意見を受け入れることの学習ができる工夫があります。一方、律令制による支配の仕組みのように本文と同じページに掲載してほしい資料が後ろ 294 ページの年表にしか載っていない。生徒は分かりづらい部分があります。本文の表現が簡素で、重要語句が太字になって強調されていない。平文になっている。図の中に例えば想像図がありますが、この絵画が 12 ページや 28 ページにあります。雑な感じがします。そういうことで学び舎を外します。

その結果、東書、帝国、日文の 3 者で集中審議を行います。

○谷口委員

選定委員会での意見をお聞きしたいのですが、歴史は 1 ページ目からスタートしていくと、古代や中世までは一生懸命やっていて最後の方になると近代や現代のところがおろそかになってしまいます。実際のところ歴史を学ぶことは大事ですが、現代のおこっている情勢であるとか歴史的な背景を知る上で、近代や現代について指導が重要だと思います。その記載の多いのは、どの出版社でしょうか。

○石井指導主事

東書、帝国、日文の 3 者とも充実はしていると聞いております。

○中野委員長

帝国で気になったところがあります。非常に充実した内容ですが、例えば 29 ページの右上の埴輪については 131 cm と大きさが表記されていますが、真ん中の勾玉や銅鏡については全然表記がありません。大きさを比較するような場合、感覚的に生徒が大きさを知る上でマイナス材料ではないかと思います。大きさがあの方が便利だと思いますが、授業をする中ではどうでしょうか。

○石井指導主事

実物大の表記がある方が、授業がしやすいと聞いています。

○野口委員

歴史学習では事実を客観的に経済的な側面も絡めながらを積み重ねていくことがとても大事なことだと思います。歴史学習の中の人権に関わる問題でも同じではないかと思います。選定委員のなかで人権に関わる歴史上のことについて、どのような意見が出ていたのでしょうか。

○石井指導主事

ページ数調査において、部落問題について取り上げているページ数は、東書 13 ページ、帝国 9 ページ、日文 9 ページと報告を受けております。女性の人権についてのページ数につきまして

は、東書 41 ページ、帝国 44 ページ、日文 38 ページと報告を受けております。

○野口委員

東書、帝国ともに部落問題並びにアイヌの問題について客観的にしっかり書かれていると思いますが、特に東書では解放令の後、部落外からの皮革産業への参入から部落が窮乏していったという、解放令がもたらしたことについてもきちんと書かれておりますし、北海道のアイヌの問題につきましても江戸時代の松前藩のアイヌとの関係、産業との関わりについて丁寧に書かれていることから、生徒にとって理解しやすいのではないかと思います。帝国も丁寧に書いていただいておりますが、東書の方がより客観的な点からいえば分かりやすいのではないかと感じました。

○中野委員長

日文について、14 ページ、15 ページの上の方に出ています古代人の想像図ですが、大きなスペースを取って目立ちますが、図としては雑な感じがします。各ページの左端の方に年代をスケールで表しています。長さを取っている割には内容が良く分からない。把握しにくいものになっていると思います。これと比較しまして東書の左ページ下に年表表示があって、ものは小さいですが色づかいも濃淡をつけて非常に見やすく、該当するところを分かりやすくしています。年表を見比べましても東書の方が分かりやすい感じがします。

○樋口教育長

歴史の導入部分ですが、項目として歴史の捉え方、古代までの日本の内容項目があるかと思えます。歴史学習に入る導入部分の捉え方を大切にしている教科書の意見はありましたか。

○石井指導主事

東書につきましては、見開きのところに小学校と中学校の学習内容が併記されていまして、特に歴史の連続性が感じられるように見開きに年表を用いていることで、流れが捉えやすいと聞いております。

○川岸委員長職務代理者

歴史はつながりがあると思うので、東書の 62 ページは今まで学習したことのまとめで覚えなれないといけなことが書いていて、次に学ぶ歴史が目に入るので、教える先生にとっても、子供たちにとっても興味を持てるので導入としては良いのかと思いました。その次のページも写真で流れが、次のイメージが持ちやすくなっているところが良いと思いました。先生方にとってはどうですか。

○石井指導主事

歴史の連続性をもって子供たちに指導できる点では評価できる、と報告を受けております。

○中野委員長

歴史の流れは大きな要素です。つなげて教えてもらえると理解が変わります。

東書という意見が多かったと思います。東書で異議ありませんか。【歴史】につきましては東書に決定します。

【公民】

○中野委員長

続いて【公民】です。公民は7者です。

教出について、ところどころに公民の窓が設けられていて、現代の問題点を示すことによって生徒の興味、関心を惹く工夫がされています。また人権的な記述が事例を通してバランス良く掲載されています。口絵で触れる点字、これも掲載されています。しかし、いろいろな資料をそろえて豊富に掲載されていますが、資料によっては130ページから131ページにあります需要曲線、これにつきましては、非常に詳しい。そのために内容が難しく、生徒の理解には困難ではないかと思えます。それと対立と合意、効率と公正の分野がありますが、26ページから29ページの4ページで取り上げられていますが、他者と比べて少ないので、教出を外します。

次に清水、紙面の両側がカラー刷りになっていて、語句の解説や資料が掲載されていて分かりやすい。しかし、全体としての仕上がり、版が小さいので両ページ外側の資料の部分にかなり空白があります。この部分を資料で埋めてもらう工夫をしていただきたい。全体的にページ数が少なくて、内容がやや少ない気がします。教科書の表表紙の裏に世界地図があります。裏表紙の裏は年表がありますが、この意図が良く分かりません。生徒には伝わりにくいのではないかと思えます。清水を外します。

自由社、様々な時代に公民分野の重要人物を取り上げることによって、より深く学習が進むような工夫がされています。しかし、全体にページ数が少なく、資料も少ない感じで、余白が多く感じます。その点で内容が不足気味です。特に注意したいのは、88ページの衆議院の定数が左上の表にあります。480人と記載されていますが、現在は475人です。自由社を外します。

次に育鵬社、キャラクターが各ページに登場して、そのページの注目すべき点などを掲示することによって生徒の注意を惹きやすくなっています。しかし、両ページ外側の資料の箇所、特に経済関連の面で空白が目立ちます。この部分を資料で埋めていただく工夫が望まれます。そういうことで、育鵬社を外します。

その結果、東書、帝国、日文の3者で集中審議をお願いします。

○中野委員長

調査結果で、グループ学習について特徴のある出版社はどこでしょうか。

○尾崎指導主事

グループ学習を取り上げているページ数調査では、帝国22ページ、東書18ページ、日文16ページの調査結果の報告を受けております。

○野口委員

グループ学習に視点を当てて見せていただいたのですが、公民の一番の目標である国民主権を担う公民として必要な基礎的教養を培う目標は、これから社会人に一步近づいて行く生徒にとっても必ず達成してもらいたいと思えます。知識として習得するのではなく、自分の意見を持ち、それを表明する、しかも他者の意見を受けながら主体的に考えていく、そういう力をつけていくことが大切だと思えます。各社ともいろいろな活動を入れてもらっていますが、帝国の教科書で特

徹的なロールプレイ、ディベートを取り上げて身近なマンション問題をロールプレイしようとか、権利と公共の福祉について対立しやすいことですが、ディベートをやってみて自ら考えるようなことがたくさん盛り込まれています。自分自身で社会のことを考えていく意味では、非常に突出して優れていると印象を持ちました。

○谷口委員

2点教えていただきたい。1点目は、成人年齢の引き下げにつきまして権利と義務が生じると思いますが、そのことについて詳しく記載している出版社はどこなのか。

もう一つは、地球環境問題についてページを多く取っている出版社はどこですか。

○尾崎指導主事

1点目の民主主義のあたりですが、東書は選挙の例をあげて、自分が市長選挙に立候補することを想定して学習を進めるページが設けられています。帝国は、政治分野の導入でだれに投票するか考えさせる内容があったり、国会議員の活動が細かく取り上げることで身近に感じさせる工夫が見られたりします。日文については、一票の格差について細かく取り上げている、という報告を受けています。

環境問題につきましては、ページ数調査や特記事項は調査員から聞いておりません。突出してどこかということも報告には出ておりません。

○中野委員長

調査結果で両性の本質的な平等について記載している量的な違いがあれば教えてください。

○尾崎指導主事

ページ数調査によりますと、両性の本質的な平等について取り上げられているのは、東書1ページ、帝国3ページ、日文3ページとなっています。

○中野委員長

東書が少ないということですね。

帝国で内容の充実した資料を掲載しています。8ページ左上の初期の携帯電話と現在のスマホで、これは生徒が興味を感じると思います。42ページの男女雇用機会均等に関して求人広告での広告の違いの比較が出ています。47ページで共に暮らすという視点で人権感覚についても触れています。49ページで著作権に関して触れています。70ページの国会議事堂の空席の台座、四隅の一つだけが空いている意味の解釈がいろいろあると出てたと思います。81ページの弁護士、裁判官、検事のバッジの違いがあがっています。140ページで3Dプリンター、168ページで領土を巡る問題、尖閣諸島の巡視船の活動の様子があがっています。183ページで緒方貞子さんの人間の安全保障ということで取り上げています。こういう観点で、非常に注目するような資料があがっていますので、素晴らしく良い内容だと思います。

○川岸委員長職務代理者

学習を振り返ろうのことですが、今までと違うのは、公民は言葉を覚えるだけでなく、その意味が分からないといけないと思います。その点で帝国の文章を読んでそれに対しての答えを出す。東書の方は、グローバル化の用語をもう一度説明しようという形になっています。子供が家で学

習する時には、本来であれば言葉を知って説明かもしれないが、学習だけを考えると帝国の方が子供達には良いのかと思います。

○谷口委員

子供が喜ぶということであれば、帝国の 91 ページに岸和田市が自治基本条例のところに載っています。教科書の中に自分の郷土が載ることは喜ぶと思います。

○中野委員長

他者で気になるところをあげると、東書ではハンセン病の患者訴訟で勝訴したと裁判関連の記事が載っています。帝国の方で共に暮らすというようなそういう触れかたではない。日文については、口絵の4ページ日本史の現代年表というのがありますが、縦書きになっています。縦書きになっているので、非常に読みづらい。ひとつひとつ文字を追いかけて読んで、頭の中でまとまるかなと思うぐらい読みづらいと思います。

帝国で異議ありませんか。【公民】につきましては帝国に決定します。

【地図】

○中野委員長

続いて【地図】です。地図は2者です。東書、帝国についてご意見をお願いします。

○川岸委員長職務代理者

色でいえば、帝国は色が薄く、東書は濃いと思いますが、調査員で色の濃い、薄いについて意見はありましたか。

○角銅指導主事

子供たちが学習を進めていくうえで、見やすい地図の方が分かりやすいと報告を受けています。色づかいが鮮やかで見やすい地図の方が分かりやすいと報告を受けています。

○樋口教育長

立体感が少し違うのかなと思います。帝国の方が色合いで立体感が出ているように思います。

○中野委員長

鳥瞰図というのが取り上げられている要素だと思いますが、東書の21ページ、22ページでユーラシア大陸が示されていますが、この図を見まして際立つのは日本列島が太平洋の崖っぷちにあるということが良く分かりますが、それ以外は色の濃淡だけで高低差があまり分からない感じがします。

帝国の方は、中国の部分で中国の周りの様子を表した鳥瞰図があるのですが、こちらの方が東西の断面図で高低差が表されています。したがって、25ページ、26ページでかなり立体的に様子が出ていますし、右下のページに高低差まで数字で表しておりその感覚が非常に捉えやすいように思います。関連して、31ページ、32ページに東アジアと日本というタイトルが付いていますが、これは東書にはない地図で大陸から日本列島を見たという視点を変えた地図で、特に東シナ海は注目されている海域ですが、これが良く分かる。大陸と日本列島との関係が非常に分かり

やすくなっています。合わせて、歴史的に日本と東南アジアの交易ルートも示されていて、これも非常によく分かります。そういう意味で非常に良い資料の掲載だと思います。

○谷口委員

国後、択捉や尖閣、竹島の捉え方が非常に地理的に分かりやすく、また写真も入って子供たちに説明しやすい状況になっている地図だと思います。

○川岸委員長職務代理者

帝国は地図を見る目が面白いと思いました。

○中野委員長

地図には必ず付きますが、後ろの方の関連資料で、これについては例えば世界の人口、面積、人口密度が帝国の161ページに載っています。これは、2013年版の資料があがっています。東書の方は、2012年版ということで、1年の差は資料としては大きい差かと思います。

帝国で異議ありませんか。【地図】につきましては帝国に決定します。

【数学】

○中野委員長

次いて【数学】にまいります。数学は7者です。

東書について、50ページにありますノートの書き方や工夫の仕方が記載されています。分かりやすいノート作りが実践できると思います。間違い例を要所で示すことで、つまずきに対する補強も考えられています。1年生の一次関数のところで、カーフェリーとジェットホイルの実例をあげています。しかし、全教科で言語活動を求められ、数学でも求められている要素です。学習指導要領で、言語活動が求められていますが、東書については言語活動の場面がやや少ないということで、外します。

次に大日本図書（以下「大日本」）について、例えば2年生の58ページにあります水溶液に関する問題のように写真や図が多く、生徒の理解を深めるには良いと思います。しかし、補足的な学習内容の記述について、章末の問題の内容が少なめ、巻末の資料も具体的な事象の確認作業には役立つが、やはり量が少なく感じます。よって、大日本を外します。

次に学図について、実生活の場面を想定しながら関心、意欲を高める工夫が多く見られます。目次に小学校あるいは中学校に入ってから既習事項に関する関係を表しているのは良いと思います。しかし、発展的な学習内容が、各章末に確認できるが量的に物足りなさを感じます。そして、例題やその解説のための配列に統一性がなく見にくい気がします。よって、学図を外します。

教出について、単元の始まりに数学ばかりでなく、他の福祉や歴史に触れる工夫がしています。しかし、フォントが少し小さく感じ、文字量が多く行間がせまい、生活を題材にした問題や写真が少なく感じます。そして、言語活動の話し合いができるような内容が少ない気がします。数学の一つの特色だと思いますが、数学を自分で勉強していて、その答えがあるかどうかは、大きな要素です。その意味では解答の見やすさは、ひとつのポイントになるかと思います。しか

し、教出については問題の出題ページの中に解答の出ているページの表示がありません。いちいち探さなければいけないことになっています。よって、教出を外します。

よって、新興出版社啓林館（以下「啓林館」）、数研出版（以下「数研」）、日文の3者について集中審議をお願いします。

○中野委員長

啓林館の大きな特徴としては“マスナビブック”という別冊があるということです。

○樋口教育長

岸和田の子供たちの学力を向上させるために興味、関心ややる気を出させる部分については、生活経験や体験、実生活の結びつき、身近な問題というそういうところから導入する事例は、この3者ではどのようなサインがあると説明がありますか。

○松本指導主事

ページ数調査を行いました実生活についての取り上げているページ数は、啓林館別冊合わせて179、数研200、日文83でありました。啓林館は問題に沿った具体的に分かりやすい絵があつて、それがイメージしやすいと調査員の中で話しがありました。

○中野委員長

啓林館の方は、マスナビブックの中に解答があります。これは問題を解きながらいつでも解答を見ることができる便利さはあると思います。

数研については、問題の出題ページに解答ページの表示がなく、不便な部分があります。

日文については、問題の出題ページに解答ページが書いています。

○野口委員

数学は原理や法則に基づいて、考えたり判断したりする力を培っていくと思いますが、その手立てとして自分の考えを整理するうえで大切なのが自らのノートをきっちりと作っていくことだと思います。ノートの扱いについて、3者の選定委員会での意見は何かありますか。

○松本指導主事

各者とも最初のページに分かりやすい表示があるかと思いますが、どの教科書も説明は書かれています。この3者に関しまして、特に啓林館は話し合いの場面で写真が載っていて、子供たちが写真を見て順番に取り組めるようになっているから分かりやすい、指導しやすいと話しは出ていました。

○野口委員

ノートの扱いで啓林館は各学年で単元について非常に丁寧ですっきりとした見本のような形で整理すると使いやすいと分かるように示してくれている。数学の苦手な子供にとっては、ノートを作るところが一つステップになってしまう。手助けしてもらえないのではないかという印象です。もうひとつ啓林館で数学展望台という形で、目次の中で取り出して分かりやすくなっています。社会の中で数学をなぜ勉強しなければいけないのかと良く聞きますが、社会の中で自分たちが関わりがあるんだと分かりやすく書かれていると思いました。

○中野委員長

そういう意味では、学習指導要領で具体的な事象を調べることを通してと入ってまして、小さい時にはなぜ勉強しなければならないのか思ったことがあります。そういうことを思わないように日常的に直面する内容を多く取りあげているのかと思います。啓林館がそういう内容では豊かになっているのではないかと思います。

数研は、例題ほどこともあまり変わっていないと思いますが、教科書全体を通してみると、進化している気がします。内容的には少し物足りない気がしています。

日文については、一通りまとまっていますが、日常生活での直面という部分で、生徒の興味、関心を惹くような印象的な、インパクトのある題材が少ないのかなと思います。

併せて考えると、啓林館が良いのではないかと思います。

○谷口委員

数研が、総ページ数で一番少ない。薄くすると内容が薄くなるので、啓林館は2冊に分かれていて合わせるとボリュームはありますが分かれていることで薄く感じます。挿絵も入っていて楽しそうで、啓林館が良いと思います。マスマナビックの使い方もあると思いますが、使いやすいのではないかと思います。

○中野委員長

発展的に取組もうと思えば、その深見はいくらでもある。啓林館決定でよろしいか。【数学】につきましても、啓林館に決定します。

【理科】

○中野委員長

続いて【理科】にまいります。理科は5者です。

そのうちの大日本について、本文の中に“やってみよう”が随所にあって、生徒の興味、関心が高まります。また、暮らしの中の理科等でも日常生活や体験と関連付けがされていて生きた学習が行えると感じています。全国の施設を紹介しているページがあり、生徒の興味、関心を高めることがあると思います。しかし、大きな問題として捉えていますのは、3年生の101ページの下にアルコールの分解があります。アルコール分解酵素の人の持ち合わせ方についての遺伝です。ここで何の説明もなく人に関する遺伝が出てきます。人の遺伝の研究方法というのは、他の生き物と異なっていて非常に難しいことなのですが、その点について全く触れていない。合わせて、アルコールを生徒が興味を持って飲んでしまうことも起こりうる可能性のある教材ですので、不適切だと考えています。よって、大日本を外します。

次に学図について、チャレンジや科学の窓が所々にあって、興味、関心が高まり発展的な学習につながっています。各単元末に“科学を仕事に活かす”が出ていて、最新の職業にも触れていてキャリア教育に配慮されている点では良いことだと思います。しかし、全体的に写真が不鮮明、図は平面的、文章と写真、挿絵、図表の各ページでのレイアウトの統一性がなく、配置も様々で

多少見にくい感じがします。巻末の索引のフォントが薄くて少し見にくい感じがします。よって、学図を外します。

次に教出について、各学年に付録が付いていて生徒の興味、関心を高める工夫がされています。各ページのレイアウトは、統一されていて見やすくなっています。しかし、写真は多いのですが、図は平面的で不鮮明です。特に1年生での26ページの他にも何箇所かありますが、気体の集め方の図、写真で気体の誘導ガラス管が集気びんのどこまで入っているのか分からないものがあります。誘導ガラス管の位置は、気体の性質と関連して非常に大事な要素ですので、これがはっきりしていないのが問題だと思います。よって、教出を外します。

残る東書、啓林館の2者について集中審議をお願いします。

○中野委員長

両者の比較で、両者とも写真は鮮明で見やすいです。東書の方は、例えば1年生の最初の3ページ、4ページにあります非常に芸術的な写真ですが、学習内容とどのように関わっているのか、という感じがします。その点で資料との関係がうまく捉えられていないのではないか、という気がします。

○樋口教育長

興味、関心を持つような身の回りの事象、日常生活の関連について2者を比較して差異はありませんか。

○堀田指導主事

日常生活に入るかと思いますが、啓林館の方が防災、減災に対するページ数が多いと報告を受けています。

○中野委員長

啓林館の1年生の71ページで東日本大震災について津波などの写真が載っていますが、他者を見ますと、これほど東日本大震災の様子を表しているものがなかったかと思います。

○堀田指導主事

東北地方太平洋沖地震に関して、啓林館だけが教材として取り扱っている、と聞いています。

○中野委員長

東書の方に“調べよう”という自由研究的な要素が出ていますが、この内容の進め方等で生徒が実施すると内容的にうまくいくかな、という内容のものがあります。3年生239ページの“微生物の働きを確かめよう”とあり、簡単に言いますと、枯れ葉などを含んだ土を持ってきてガーゼで濾して、一方はこの濾液を使い、一方は対照実験として水を使って、ここにでんぷんを入れて反応させた後、ヨウ素でんぷん反応をしてでんぷんが残っているかどうかを比較する内容ですが、これだけで微生物の働きだと言うことは決められないと思います。何故なら、微生物の存在というのは、目に見えていない訳で、この段階では結論付けられない。もうひとつ対照実験としては、その濾液を煮沸するのも“C”として用意し、それで違いを見て、最終的の“A”を顕微鏡で見て微生物がいれば、そういう結論につながると思います。そういう実験条件が、きっちり定められていない。こういう実験を示すのは、良くない材料だと思います。もっと条件をきっち

り設定して子供に実験をさせることが大事だと思います。

○谷口委員

総ページ数について、啓林館は2つ合わせると一番多いが、分けることで一番少なくなっています。前のマイノートは使いにくいと噂を聞いたことがあります、改善されているかどうか分かりません。実験の数を調べてみるとほとんど同じ実験が載っています。実験を進めていく中で、子供たちへの指導にページ数が少ない中、十分な内容が記載されているのかどうか教えてください。遜色なく仕上がっていると考えてよろしいでしょうか。

○堀田指導主事

特に内容が少ない、という報告は受けておりません。

○谷口委員

先ほどの数学と同じで、指導する場合、ボリュームがある方が活用できると考えてよろしいか。

○堀田指導主事

はい。

○中野委員長

理科の学習で立体的に見て考えていくことが大きな要素だと思います。立体的な図が多い調査結果があれば教えていただきたい。

○堀田指導主事

立体的な図に関しては、東書と啓林館の2者が多いと聞いています。

○中野委員長

マイノートがあるということで、その活用によって発展的な学習につながることを期待したい、と思います。

○野口委員

理科の学習で実験がすごく大事だと思います。実験についての記載を見ますと、東書は大変大きく分かりやすく図などを書いてもらっているが、ページによっては考察が次のページにあって意図的にしているのかと思いますが、東書と比較しますと、啓林館では実験の書き方が目的、方法、結果、考察が一つのページの中にきちりとまとめられています。方法もステップ1、ステップ2と縦になっていて非常に見やすく分かりやすくなっています。この教科書を見てどういう風の実験していけばよいのかが非常に分かりやすい記載になっています。実験に不安を持っている生徒にも良く理解できる書き方になっているのではないかと感じました。

○中野委員長

いままでのデータですが、大阪府におきましては全国的に中学校での実験が少ないと出ていました。啓林館の方で実験についてうまくまとめているので、実験が重視されて興味、関心を招くような取り組みをやってもらおうと思いますので、啓林館にしようと思います。よろしいでしょうか。

【理科】につきましては、啓林館で決定します。

【音楽（一般）】

○中野委員長

続いて【音楽（一般）】にまいります。音楽（一般）は2者です。
教出、教育芸術社（以下「教芸」）の2者についてお願いします。

○中野委員長

教芸の教科書を開いて感じたのは、目次、音楽学習マップで学習していく内容、非常に分かりやすく、しかもねらいが学習マップで明らかになっています。そういう点で教芸が分かりやすいと思いました。

○谷口委員

教出の1年生7ページの母音の発音の例で口の絵が描いていますが、何か良く分からない。余計に混乱しそうな、発音が変になりそうな感じであまりふさわしくないと思います。

○川岸委員長職務代理者

中学生になりますので、変声の面に関してどちらも載っていますが、どちらの方が丁寧であるとか、分かりやすく説明しやすいとかありますか。

○川田指導主事

どちらも変声期については書かれていますが、教出の方がオクターブを楽譜の上で説明をされているので、まだ変声期を迎えていない子供に対しては自分がどこを歌えば良いのか、女性のアルトの部分の歌う安心感があると調査員は言っていました。

教芸の方は、医学的な形で変化について説明がありましたので、どちらも変声期についてはしっかりと説明されていると聞いております。

○中野委員長

両者共通に『花』が出ています。この楽譜の記載の様子を見ますと、微妙に違いがありますが、どう違うのですか。

○川田指導主事

教芸の方が『花』の一番が終わったところで間奏があります。その間奏の部分でページがめくられるように配慮されています。子供たちが歌う中では教芸の方が非常に歌いやすいと調査員は言っていました。

○樋口教育長

音楽の学習の初めに目次は両者ともあって、見やすいのは教芸と話しがありましたが、その後の音楽学習マップが片方にはないようですが、マップがあることで先生方にとって指導がやりやすい内容になっているのでしょうか。

○川田指導主事

目次にはどのような曲があるという流れが分かるのですが、音楽マップを見ることでどの観点で何を学習するという形が生徒にも分かりやすく、また指導者としても使いやすいと聞いております。

○中野委員長

目次を見ますと、教出の方で掲載されている曲数が多いような気がしますがどうですか。

○川田指導主事

曲数は多いと聞いております。

○中野委員長

その難易度を比較するとどうですか。

○川田指導主事

たくさんあっていろいろな曲に取り組めるが、少し難易度が高いと言っていました。

○中野委員長

教出の難易度が高いということですね。

○川田指導主事

はい。

○中野委員長

教芸の大きな特徴だと思いますが、1年、3年、上下それぞれに『ふるさと』の合唱曲が出ていますが、これは非常に大きな特徴だと思います。岸和田では熱心に合唱に取り組んでいますので、全校合唱というような題材としては非常に適しているのかなと思いますが、その点はどうですか。

○川田指導主事

1年生で学ぶ、2年生、3年生で学ぶという段階的にアレンジも変わっていますので、1年生だけでも歌えますし、全校でも歌える工夫がされていますので、そこは活用できるのではないかと調査員言っていました。

○中野委員長

各学年の発達段階で教え方も異なるような配慮もされているということですか。

○川田指導主事

そうです。

○中野委員長

音楽の大事な要素で、歌を歌う場合にもイメージが非常に大事だろうと思います。そういう点で両者とも掲載している写真で非常に綺麗なものがありますが、教出の場合には写真に歌詞がオーバーラップしていて少し見づらい感じがします。その点、教芸の方はすっきりした仕上がりになっていますので、教芸の歌詞が見やすいのかと思います。また、教芸の歌詞で縦書きになっているので、文章的な捉え方で内容を把握しながら歌っていける点で教芸の方が良いのかと思いますがどうでしょうか。

○川田指導主事

その点につきましても調査員もそのように言っていました。

○谷口委員

教出の良いところは、1年生、2年生や3年生の教科書いずれにも国歌―『君が代』―が掲載さ

れていまして、国歌の意味や誇りを持って歌おう、と書かれているのが良いと思います。教芸を使う場合にも国歌を歌うことをご指導していただけるよう願います。

○中野委員長

学習指導要領の内容に従って指導してください、ということです。音楽（一般）は教芸ということによろしいか。

【音楽（一般）】につきましては教芸に決定します。

【音楽（器楽合奏）】

○中野委員長

続いて【音楽（器楽合奏）】にまいります。音楽（器楽合奏）は2者です。

教出、教芸の2者についてお願いします。

○野口委員

中学校の器楽では和楽器を必ず指導することになっていると思いますが、岸和田市の楽器の指導はどのような特徴があるのか、その点から見てどちらの教科書が使いやすいのか、その意見についてどうでしょうか。

○川田指導主事

岸和田市の中学校では、箏を取り上げているところが多いと聞いています。その箏の説明が詳しいのは、教芸の方になっています。

○野口委員

リコーダーについては、アルトリコーダー、ソプラノリコーダーについて、中学校の指導の特徴はどのようになっていますか。それについて、どちらの教科書が岸和田の生徒の指導に合っているのか、どのような意見が出ていましたか。

○川田指導主事

リコーダーに関しまして教科書で言いますと、教出の方がソプラノリコーダー、アルトリコーダーの両方が記載されています。ソプラノリコーダーは小学校で使っていて中学校でも使うところはありますが、やはり中学校ではアルトリコーダーが中心になっているようですので、アルトリコーダーと併記されている教出の方は少し見づらいところもあるのではないかと、という意見は出ていました。ただし、小学校の時にソプラノリコーダーを使っていることで、それがあつて安心感があるという面では取り組みやすいかもしれない、ということを教出については言っていました。

教芸に関しましては、アルトリコーダーのみの指導になっておりますが、その中でもレッスン1、レッスン2というふうに段階をあげて練習ができるようになっておりますので、その部分で初めてアルトリコーダーを使用する生徒にとっては取り組みやすいのではないかと、と教芸についてはそのように調査員が言っていました。

○中野委員長

両者の目次を見比べますと、両者とも色分けしており、それぞれの楽器について後ろのページとの関係を整えています。子供たちがページを探すのには良いのかと思います。ただし、細かい配慮をしていると思うのは、教芸に感じます。例えば、太鼓の打ち手ですが、教芸 39 ページ、教出 56 ページに出ていて同じ内容ですので比較がしやすく、教出は白い背景に白装束で活動していて、教芸は白い背景に黒装束で活動しているので、動作の様子は明らかに黒装束の方が鮮明に分かります。そういう点で、視覚的な効果は教芸の方が細かく配慮していると感じました。

もう一点、アルトリコーダーの運指の図ですが、教芸は背景の色を変えたり、色分けしたりしています。サミングについても色分けをして動きが分かりやすくしている配慮ができています。

○樋口教育長

教芸は、レッスン1からレッスン3までを段階的に学んでいくことをはっきりとされています

○中野委員長

音楽（器楽合奏）は教芸ということによろしいか。

【音楽（器楽合奏）】につきましては教芸に決定します。

【美術】

○中野委員長

続いて【美術】にまいります。美術は、3者です。

開隆堂、光村、日文の3者について、ご意見をお願いします。

○中野委員長

大きさを比べると、日文が2cmほど大きいという特徴があります。

○樋口教育長

大判になっていますが、日文は3冊になっていますが、調査員は2冊編成と3冊構成で何かメリットについて話しが出ましたか。

○川田指導主事

3冊になっている日文について、まずは大きくなっていて、他社よりも幅が2cmほど広がって図版が非常に分かりやすい、ということをおっしゃいました。また、3冊になっているということで、1年生、2年生、3年生と分けるわけではありませんが、段階を追って指導がしやすいと調査員もおっしゃいました。

○中野委員長

発達段階に応じての指導がしやすい、ということですね。

どのようなことを勉強するのかを目次を通して分かることが、教科書の大きな要素だと思えます。3者で目次に個性があって違いがあります。その点について説明いただけますか。

○川田指導主事

目次につきましては、最初のページに写真等ありますが、開いて見ないといけないところ、開

くと直ぐに目次が出てくるところで差が出ていると思います。日文に関しては、開くと直ぐに目次が目に入り分かりやすい。

○中野委員長

具体的に言うと、開隆堂は開かないと見られない不便さがあり、光村はめくると分かるが、そのままでは分からない、日文は表に出ている、ということですね。

○野口委員

他の教科に比べて美術の教科書は、授業の中で扱う時間が短くなってきて、自分で作品を作る時間が長くなると思うので、その教科書を一目見て分かりやすいことが非常に大事なことだと思います。その点で、日文の教科書は全ての単元の下にそのページが表現の学習であるのか、鑑賞の学習であるのか全て記載されていて、そのページを開いて次に表現活動につながる学習をするんだ、ここでは鑑賞について学習するんだ、とか非常に分かりやすい点では良いのではないかと思います。生徒作品のところに作者の言葉があって、自分はどんなことに注意したり、どういうところに力を入れて製作したり、と生徒の言葉で書かれています。他の教科書にもありましたが、赤で分かりやすく表示されていて、生徒が見やすいのではないかと思います。

○中野委員長

3者ともに生徒の興味、関心を集めるための工夫をしていて、開隆堂では原寸大の迫力ある資料を掲載している。光村では、58 ページにキャラクターの公募された具体的な例をあげている。これも生徒が非常に興味を感じる部分かと思います。日文でもゴッホから井上直久など、それぞれ学年に応じて各冊で大きな作品として捉えるような工夫をしています。32 ページ、33 ページで子供に人気のあるアニメ、マンガを取り扱っています。3者ともに工夫をしていますが、全体を通してA4版よりもさらに大きく、特に日文で写真、図版が見やすくなっています。また、体系的な学び方ということで、日文ではうまくまとまっているのではないかと思います。子供たちは教科書が大きくなると、持ち運びに困るという声を聞きそうですが、持ち運びよりも内容の方が大事だと思います。

○中野委員長

日文という声が多いので、【美術】は日文に決定します。

【保健体育】

○中野委員長

続いて【保健体育】にまいります。保健体育は、4者です。

大修館書店（以下「大修館」）について、全体を通して見まして、大修館の資料の部分の余白が多いように感じます。この余白部分を充実させることが必要かと思います。全体のページ数も少なく、内容的に不足気味ではないかと思います。特に気になりますのは、136 ページ、137 ページの136 ページの下の方で、タイトルは「薬物は心の隙に入ってくる」の内容で、その下の方に薬物乱用のきっかけとして、有機溶剤の例が出ています。データも出ていますが、この部分に

についてはペイント業界が水溶性の塗料に切り替えて、有機溶剤の出回る量をかなり減らしていますので、このデータはかなり古いと思っています。137 ページでは、合法ハーブという自販機の様子が出ていますが、これについては現状としてあり得ません。そういうことで、内容について古い部分がありますので、外します。

残りの東書、大日本、学研教育みらい（以下「学研」）の3者で集中審議をお願いします。

○川岸委員長職務代理者

東書だけが学年別で保健体育となっていて、大日本と学研は保健編、体育編となっていますが、学習するうえではどうなのでしょう。何か違いはありますか。また、どちらの方が学習がしやすいですか。

○新田指導主事

基本的には学年ごとに進めていくことになると思いますが、学校の規模によっても進め方が若干違うこともあると聞いております。

○中野委員長

保健で気なっていますのは、薬物乱用防止ということで昨年、危険ドラッグという用語が定着して、どの教科書も間に合わなかったのは仕方がないと思います。ただ、気になるのは薬物乱用の扱いですが、大日本の方では128 ページ、129 ページで扱っています。学研の方では106～109 ページにわたって出ています。東書の方は128 ページ、129 ページに出ています。その前でそれぞれ、たばこ、酒、薬物について個々に取り上げています。まとめとして扱っているのは、大日本では喫煙、飲酒、薬物乱用のきっかけを3者並列して出ています。学研は喫煙、飲酒、薬物乱用のきっかけに対して手を出さないためという形で3者を並列して出しています。東書は薬物乱用の社会への影響として薬物だけを取り上げています。3者を並列して取り扱うということに問題があると思っています。たばこ、酒は未成年者が所持しておれば、没収されるだけで罰せられません。しかし、薬物については持っているだけでも罰せられます。そこに大きな違いがあります。ただし、学習指導要領では、3者を並列したような表現になっているのですが、その部分では、明らかに学習指導要領の対応が遅れている、というふうに思います。薬物乱用については激しく変化していますので、学習指導要領の方が追い付いていないように思います。その部分ではやむを得ないかなと思いますが、そこは教える側がきちりと区別をして教えないと、同列という意識を持つことは大間違いですので、その点東書は薬物乱用の社会への影響だけを取り上げていて、特に129 ページでは薬物常用者による犯罪を取り上げています。犯罪と深い関わりがあることを取り上げていて、大事な部分だなと思います。イラストの部分も多いのですが、教科書全体、本文の内容を検討するとやや少なめかなという気がします。他の部分で物足りなさを感じています。

他の部分では、大日本の方が充実しているのではないかと思います。サイズも大きくなっています。

○谷口委員

東書の薬物乱用を別に取り上げたこと、違法性があるものとないものと嗜好品の範疇から手に

入るものとは別であるという意見に対しては賛成です。現実的に中学生が、きっかけとしていきなり薬物から入ることはないので、喫煙、飲酒からきっかけになることが多いので、それがきっかけでズルズルいく危険性を訴える意味では学習指導要領に沿った3者の並記ということもやむを得ないかなと思います。大日本が素晴らしいと思うのは、乱用のところで薬物を勧められたときに自分がどのように断るのかを書き込めるような欄を設けていることで、先輩などから聞いたことを自分でシュミレーションすることによって、もしそういう状況に陥ったとき、または陥りかけたときにシュミレーションした行動ができることは、非常に有用な教育的効果があるのではないかと思います。ぱっと見た教科書の見やすさも大日本は白地になっていますので、目に入ってくる感じがします。薬物乱用の次のページの感染症につきましても、いろいろな感染症があって、世界中で広がっています。そこに顕微鏡写真を載せていて非常にインパクトがあって見やすく、頭に入りやすいと感じました。

○野口委員

大日本について、実際にビデオや実技でないとう理解できないかも知れませんが、例えば102ページの心肺蘇生法の図示があり、横並びで番号もふって非常に分かりやすく、ビデオ等と一緒に学ぶことで子供たちにも理解できる内容になっていると思います。図示が非常に分かりやすい点では、例えば12ページ、13ページの運動やスポーツの技術の学び方の例で、非常にシンプルな絵ですが人の動きの特徴がすごく分かりやすく、ここでも横並びできっちりとされています。保健の時間はそんなにたくさんあるわけではないので、その時間内にきちんと子供たちに習得してもらいたいと願いますので、分かりやすい教科書が良いのではないかと思います。そういう点からも大日本が良いと思いました。

○川岸委員長職務代理者

応急処置のところですが、バンドエイドの使い方が載っていて、擦り傷や切り傷の応急処置について図で示していて、今の中学生の生活にすぐに使えることが大きな字で載っているのが良いなと思いました。また、覚えなといけない言葉が太字になっていて、3者の中でも一番太くて分かりやすく感じましたので、大日本で良いと思います。

○中野委員長

大日本ということで、異議はありませんか。

【保健体育】につきましては、大日本に決定します。

【技術・家庭（技術分野）】

○中野委員長

続いて【技術・家庭（技術分野）】にまいります。技術・家庭（技術分野）は、3者です。

東書、教図、開隆堂の3者で集中審議をお願いします。

○川岸委員長職務代理者

中学校に入っの初めての分野ですので、挿絵や目で見えるものがたくさん載っている方が良い

のかと思うのですが、その点について先生方の意見はどうか。

○河野指導主事

3者とも視覚の資料については配慮されていましたが、より東書の方が実習を見開き2ページで示されていたり、写真とイラストを併用したり見やすいように配慮されているという印象を持っていました。

○谷口委員

安全指導や事故防止について多く記載されている教科書どれですか。

○河野指導主事

ページ数調査によりますと、安全指導、事故防止について取り上げているページですが、東書34ページ、教図20ページ、開隆堂27ページという報告を受けております。

○樋口教育長

中学校では初めて技術の扉が開かれますが、始めのガイダンスというのでしょうか、導入部分について丁寧に扱っている、また授業として分かりやすいという声はどうでしょうか。

○河野指導主事

3者ともAからBについて順番に配列されている点ではどの教科書を使っても使いやすいという印象を持っていました。ただし、一つひとつの項目につきましても、東書がより学習内容が見やすいということと、背景のイラスト等、宇宙をイメージされるようなものが描かれていたりして興味を持ちやすいという印象を持っていました。

○中野委員長

東書の説明がありましたが、東書だけにある巻末の防災手帳があります。この特徴を教えてください。

○河野指導主事

技術家庭科につきましては、将来にわたっての大事な内容になります。防災手帳につきましては、技術、家庭の学習した内容をどのように防災に活かしていくのか、具体的に示されていて活用しやすいという印象を持っていました。

○中野委員長

組み立てに関する図面ですが、教図と他の2者とは少し違いがあるように思いますが、どう違うのか、それによってどのような取組みの違いが生じてくるのか、図面の読み方も分かりませんで、違い、授業での扱いでどのような差が出てくるのか教えてください。

○河野指導主事

製図の内容ですが、東書、開隆堂につきましては、生徒が実際に作図をすることを想定した紙面構成がされていると言っていました。教図に関しましては、その図法の紹介のみにとどまっているということが違う部分と、教図は図法を示していないところが他者と違う部分で、実際に調査員に聞いてみますと、製図も授業に取り入れているので使いやすいとすれば、東書または開隆堂という印象を持っていました。

○谷口委員

先ほど安全に関しての記載は東書が多いとありましたが、実習が技術の中の大きなウエイトを占めていると思います。その中で、実習に取り組みやすい、逆に組みにくい教科書の意見はあがっていましたか。

○河野指導主事

視覚資料でも話しさせていただいたとおり、東書については見開きのページで工程が分かるように示されていて、時間の流れが横になっていて目で追いやすくなっていますので、子供たちがイメージしやすいと言っていました。開隆堂につきましては、たくさんの作品例が載っていて、興味を持ちやすい点ではメリットはありますが、初めて実習に取り組む子供たちを考えたときには、少し一つひとつの作業の情報が小さく、少なくなってしまうのでイメージがとりにくいと言っていました。

○中野委員長

開隆堂では写真よりイラストの方が多いい気はしますがどうですか。

○河野指導主事

特徴として、そういうことも印象として言っていました。東書は写真とイラストの両面使っているところが授業には使いやすく、子供にとっても分かりやすいと印象を持っていました。

○樋口教育長

東書の大きな見開きだと分かりやすく、開隆堂は少し小さい気がします。

○中野委員長

特に作業図で小さいと自分ひとりで取り組む場合には難しいと思います。
東書ということで、異議はありませんか。

【技術・家庭（技術分野）】につきましては、東書に決定します。

【技術・家庭（家庭分野）】

○中野委員長

続いて【技術・家庭（家庭分野）】にまいります。技術・家庭（家庭分野）は、3者です。
東書、教図、開隆堂の3者で集中審議をお願いします。

○中野委員長

3者の目次の配列が違うように思いますがどうでしょうか。

○河野指導主事

調査員もそのあたりを気にしていました。学習指導要領で示されていますAからDの領域に則った形で指導してきましたので、内容が入れ替わっているところでは少し学習がしにくいかと思っています。その点で言いますと東書は配列が変わっていますので使いづらい印象を持っていました。

○中野委員長

東書が他者と違うということですね。

○野口委員

家庭科の中では特に調理実習が生徒にとってとても楽しみだと思いますが、調理実習の扱いについて先生方が指導に適している、生徒がしっかりと興味を持って意欲的に取り組めるという意見はありましたか。

○河野指導主事

3者とも特徴がありまして、教図は非常にたくさんの例が載せられていて興味を持ちやすく配慮されている印象を持っていました。ただし、そのメリットやデメリットがありまして、多く載せることで全体の目安の時間は書かれているのですが、それぞれの作業ごとの目安の時間というものが載っていないので、初めて調理に取り組む子供にとっては分かりにくくなる印象を持っていました。その点、東書、開隆堂では、それぞれの作業についての目安時間が書いていて、なおかつ作業手順が時間を追って目で見やすい形で配列されているので、見やすい印象を持っていました。

あとは直観的なことですが、食べ物ですので視覚的な部分は意欲を持つことに影響があるとの印象を持っています。そう考えますと、開隆堂の使用されている写真が鮮やかで食欲をそそるといった印象を持っていました。

○中野委員長

先ほどの技術でも触れましたが家庭科でも同様に実習が伴いますので、事故防止、安全管理についての3者の比較を教えてください。

○河野指導主事

3者とも安全についての配慮はされています。ページ数調査によりますと、東書 33 ページ、教図 37 ページ、開隆堂 38 ページという報告があります。

○樋口教育長

調理の面で鮮やかにおいしそうに見えるのが開隆堂とありましたが、実際に調理をする手順や配慮している部分についての比較についてどうですか。

○河野指導主事

手順につきましては、東書、開隆堂ともに調理を実習する子供たちにとっても分かりやすいという印象を持っています。教図につきましては、たくさんの調理例を掲載しているので、いろいろなことに挑戦をしたいという意欲のある子供にはメリットはあるかもしれませんが、全ての子供と考えると若干取り組みにくい部分があるとの印象を持っていました。調査員の率直な意見とするとレシピ本のような印象を持っていました。

○中野委員長

3者の紙面を比較して、版が大きい東書はゆったりしているのは明らかで、教図と開隆堂とを比較すると、版の違いはありませんが教図の方が図が込み合っていて、中に説明用の文字が入っているが細かくて窮屈な、圧縮されているようで見にくい感じがありますが、何かそのような指摘はありましたか。

○河野指導主事

岸和田の子供は、字を見たら嫌がると言っていましたが、教図は真面目に作りこんでいるが少し文字数が多いという印象を持っていました。

○谷口委員

もう一度確認しますが、東書の学習指導要領とは違う順番は、教える側にとって、理解する側にとってもマイナス点になるのでしょうか。

○河野指導主事

配列を見ますと家庭からスタートして徐々に広げていく配列がされていますが、東書はまず“食”から入っていて、興味、関心から言いますと子供にとってプラスの面もあるかもしれませんが、調査員にとってはAからの順番の方がやりやすい印象を持っていました。

○中野委員長

教科書に関しまして、文部科学省からユニバーサルデザインに重点を置いた指示がありますが、ユニバーサルデザインの観点で3者を比較した場合に何か違いはありますか。

○河野指導主事

ページ数調査でユニバーサルデザインについて取り上げているページ数は、東書4ページ、教図2ページ、開隆堂5ページという報告があがっています。調査員の印象としては、随所に共生を意識したページ構成、紙面構成がされているのは開隆堂という印象を持っていました。

○中野委員長

それは大事な要素です。

調査結果等を聞きますと開隆堂になると思いますが、異議はありませんか。

【技術・家庭（家庭分野）】につきましては、開隆堂に決定します。

【英語】

○中野委員長

最後に【英語】にまいります。英語は、6者です。

学図について、3年生でブータン農業の父と言われた西岡恵一さんが掲載されていますが、この方は大阪出身で非常に親近感を感じる素晴らしい教材だと思います。しかし、本文の両サイドに写真や挿絵があると本文が短くなって窮屈になっている感じがします。1年生の教材で面白いのですが、先生が相撲部屋を訪問したという題材になっています。力士の朝の稽古やちゃんこ鍋が紹介されているのですが、1年生の初めての教材なので仕方がないと思うのですが、高学年であれば、相撲が日本の国技であることや長い歴史があり、最近では海外からの力士が増えていくとか、いろいろな内容に触れることができたのではないかと思います。高学年で扱えば良かったと残念な気がします。先ほど社会科で2年生と3年生の巻末の付録で指摘しましたが、綴りと発音、不規則動詞変化表、形容詞・形容動詞変化表についてまとめられています。一行ごとに色の濃淡が付けられていて、濃い色の単語が目に入って色の薄い単語が見にくくなります。気を利

かせているつもりでしょうが、見づらい部分があるということです。そういうことで、学図を外します。

次に教出について、ページの中央に本文があつて、両側に資料があつて本文が短くなっています。多くの出版社で英語落語を取り上げてもらっています。新作落語の動物園を使つていまして、非常に面白い、楽しい内容だと思いますが、最後の“おち”までいかなくて、“おち”を生徒に考えさせるしまい方になっています。中学生ではまだ落語をたくさん聞いていないと思うので、英語でしっかりと“おち”を教えてもらつて落語を楽しむ要素をもっと強く出してもらえたらよかつたのではないかと思います。少しひねり過ぎたのかと思います。学習目標が示されて、大きな絵や写真を配置するとともにイメージが捉えやすい配慮はありました。学年ごとのまとめとして発表する活動が徹底されていて学習の定着に効果的だと思います。先に触れた点で、教出を外します。

次に光村について、ビザの発行によってリトアニアで6千人の命を救つた杉原千畝さん、カンボジアで地雷撤去に活躍の雨宮清さんが紹介されていて素晴らしい内容だと思います。しかし、3年生での給食と弁当のどちらが良いか立場を明らかにして意見を言ひましよう、という教材があります。岸和田市の中学校では来年の2学期から学校給食を開始予定です。そういう状況の中で、給食か弁当かの議論は困ります。むしろそういうことよりは、給食で残さを出さない、あるいは好き嫌いをしない、世界的な状況を見ますと少し減つたとはいえ、飢餓に直面している人口が8億人近くいます。そういう状況を考えると給食か弁当かの議論よりも、食育に重点を置いた教材にしてもらいたかつたと思っています。そういうことで、光村を外します。

残りの東書、開隆堂、三省堂の3者で集中審議をお願いします。

○樋口教育長

英語ではコミュニケーションや身近な会話表現が重要視されてきていると思いますが、3者を比較してそれを取り扱っているページや内容の分量はどのような感じですか。

○根川指導主事

ページ数調査によりますと、コミュニケーションについて取り上げられているページが、東書70ページ、開隆堂72ページ、三省堂75ページと同じくらいコミュニケーションについては多く取り上げられていると報告があります。

○中野委員長

英語の教材でも大切な要素として、人権感覚を育てるというような人権に関して3者比較のデータがあれば教えてください。

○根川指導主事

人権の取り扱いについても、3者とも的確に掲載されています。

○中野委員長

量的にはそういう扱いになると思いますが、内容的にはかなり濃淡があると思います。特に三省堂ですが、3年生でスーダンでのハゲワシと横たわっている子供の報道写真があつて、この撮影者はピューリッツァ賞をもらったということですが、これを基にスーダンの救済活動が広まっ

たという成果はあったと思います。一方で、記者は報道よりも少女の命を助けるのが先でなかったかという批判もありました。その扱いについては、三省堂では、「What would you do?」という閉じ方をして子供に考えさせる、ということで人権感覚、人命尊重の観点からは非常に中身の濃い教材かと思えます。

金庫破りの話がありまして、金庫の中に少女が閉じ込められてしまって、他の人が見ている前でその金庫を開けると、自分がかつてそういう金庫破りをしていたことが明らかになってしまいが、少女の命を助けるために金庫を開けた、という内容もあります。平和学習につながりますが、原爆の像のモデルであります、佐々木貞子さんの題材もあがってしまっていて、非常に貴重な教材かと思えます。さらに言いますと、米国の人種差別反対運動のロザ・パークさんの内容であるとか、バスの座席を差別されたという内容も出ています。キング牧師の「I have a dream」の演説が出ていて、幅の広い国際知識を身につけるという点では優れた教材だと思っています。

○谷口委員

教える先生の立場からして、文法等、生徒に理解されやすく工夫をしている教科書はありましたか。

○根川指導主事

ページ数調査になりますが、本文について取り上げているページ及び文法について取り上げているページについて調査しております。本文が東書 87 ページ、開隆堂 72 ページ、三省堂 92 ページで、文法説明が東書 14 ページ、開隆堂 27 ページ、三省堂 39 ページとなっております。三省堂が文法説明に取り上げているページがかなり多くなっています。

○野口委員

中学校の英語の先生によるお話を聞いたときに、最初に子供に英語をより親しんでもらうためにクラスルームイングリッシュが大事だと聞きました。できるだけ子供たちに英語でやり取りをする意味ではクラスルームイングリッシュをたくさん設定して日常の学級の中で自然に英語を使っていこうと思えるのは、三省堂の 18 ページ、19 ページにクラスルームイングリッシュについて載っているものが一番バラエティに富んでいて、生徒から先生へという内容がたくさんありまして、先生とやり取りができるようになれば教科書の内容にもよりスムーズに入っていけると思います。三省堂の 18 ページ、19 ページは充実していると思いました。

○中野委員長

以前、小学校で外国語活動が行われていまして、中学校に入って英語嫌いが増えていると新聞報道がありました。それは困りますので楽しい教材を用意してもらって、子供たちが楽しんで英語を学んでいくことが非常に重要な要素だと思いますが、その点でグローバル化の流れもありまして、三省堂の扱っている内容で国際的なものとして 1 年生で UK、USA、2 年生でハワイ、小笠原、ウルル、インドを挙げていますが、3 年生でフランス、モンゴル、ケニアというように国際色豊かな様子が表されています。子供たちが興味を持つような内容かと思えます。

○樋口教育長

もうひとつ良さを感じた部分がありまして、英語の導入で先ほど身近な表現等言わせていただきましたが、その中で、最初のページをめくったときに“コミュニケーションを楽しもう”というものが三省堂の入り口の部分です。開隆堂は、“新しい友だちを作ろう”と表題はなっていますが、いろいろな挨拶の英語の文字がいっぱい出てきていて如何かと思います。東書は、ハイイングリッシュというところで、一日の挨拶というところで、無難な英語で挨拶をする表現を書いています。が、“コミュニケーションを楽しもう”というところが、一番夢があるというか楽しい部分であるのかなと感じました。

○中野委員長

小学校の外国語活動に入ってから、中学校の英語の教科書の構成がだいぶ変わりました。アルファベットは小学校に移ってるので、いきなり楽しい材料を取り上げることができるのかと思います。

三省堂で異議ありませんか。

【英語】につきましては、三省堂に決定します。

○中野委員長

それでは、ご審議いただいた結果のとおり、岸和田市立中学校における平成 28 年度使用教科用図書を採択いたします。

ほかには何かございませんか。それでは、本日の定例教育委員会は閉会とします。

閉会午後 6 時 20 分

本会議録に相違ないことを認め署名する。

委員長

署名委員